

「書く力」「伝える力」をはぐくむための 活動の充実

糸魚川市立磯部小学校



河内	一成(M1)
武井	由香(M1)
皆川	沙織(M1)
本山	恵美(M2)
松本	修 (アドバイザー)

1 支援の目標

○教育活動への支援

○学校や児童の実態把握

○研究目標の理解とその明確化・焦点化

2 支援計画

(1) 教育活動への支援

- ・授業の実践の協力
- ・個別の指導が必要な児童への支援
- ・児童の見取りと評価への協力

(2) 校内研究推進委員会への参画

- ・校内研究の方向や進捗状況についての協議
- ・国語科教育の授業構想(3年・4年・6年・1年)
- ・言語活動の構想
- ・学期末テストについての方策についての協議

(3) 校内研究授業の参観と協議会への参加

- ・見取りの共有と国語科授業構想の評価

3 磯部小学校の学校課題と児童の実態把握

校内研究主題

認め合い学び合う子どもの育成

—「書く力」「伝える力」をはぐくむための
言語活動の充実を通して—

3 磯部小学校の学校課題と児童の実態把握

児童の実態

- ・丁寧な言葉遣い
- ・授業への集中
- ・ノートへの丁寧な記述
- ・国語の学力や思考力について個人差が大きい
- ・極少人数の学校言語環境のため、
討議の苦手意識や語彙不足の傾向あり

3 磯部小学校の学校課題と児童の実態把握

磯部小学校の学力の思い描きについて ～教育活動の観察からの考察～

○学力育成の内実と過程の捉え

- ・「知識を獲得すること」→「知識を活用すること」
- ・単元授業がパターン化されている

○一斉教授スタイルが多い

- ・グループや全体での交流場面が少ない

- ⇒ 学力育成の内実と仕組みについてさらに考えを深め、
それに基づく単元授業を開発実践する
- ⇒ そのよさを教職員と共有する

3 磯部小学校の学校課題と児童の実態把握

磯部小学校の日常の教育活動

○相手意識を大切にした言語活動

- ・相手意識をもたせ、話し手と聞き手の双方を育む
- ・コミュニケーションは
双方向の社会的事象であるという意識づくり

○意識を大切にした言語活動

- ・学習意欲の喚起や既習事項の定着につながる
- ・学習の終末に既習事項を発揮する実の場を設定する

4 認知のプロセスをふまえて「書く」力の形成を図る

認知のプロセス

外的な刺激から得る曖昧な情報

意味付け

統一化明確化した情報
判断し理解できる情報

関連づけ

既習の情報との関連を図りながら情報を
圧縮したり整理したりし情報を構造化する

メタ認知

認知の在り様を
高次に認知

全体の認知能力を
高めることができる

5 単元授業の構想と実践

第3学年 9月 単元名 話し合って決めよう
教材名 「私たちの学校行事」

第4学年 10月 単元名 説明のしかたについて考えよう
教材名 「アップとルーズで伝える」

第6学年 11月 単元名 読み取ったこと、感じたことを表現しよう
教材名 「この絵、私はこう見る」
(糸魚川市市教委訪問日)

第1学年 12月 単元名 かるたを つくろう
教材名 「あつまれ、ふゆのことば」

5 単元授業の構想と実践

第6学年 国語科

(1) 単元名 読み取ったこと、感じたことを表現しよう

(2) 単元の目標

絵画から読み取ったり感じたりしたことを話しあったり書いて読みあったりしながら相互に伝え合う活動を通して、事物事象を見つめる観点を増やしたり、自分の見方感じ方を言葉で効果的に表現する力を高めたりする。

5 単元授業の構想と実践

(3) 目標に迫るための主な手立て

- ・非連続型テキストから情報を読み取り、言語化する
- ・事実と考えを区別して認識する
- ・気づきをカテゴライズする・集合に名前を付ける
- ・意味付け・関連付けを再構成する

(4) 単元の展開

- ・絵から情報を読み取り、観点を整理する
- ・表現の工夫とその効果について考える
- ・絵の紹介文を書く
- ・絵の紹介文を読み合って交流する
- ・自分のお気に入りの絵について鑑賞文を書く
- ・磯部小美術館を開く

5 単元授業の構想と実践

(5) 本時の目標

「風神雷神」の絵のよさについて友達と交流する活動を通して、事物事象を見つめる観点を増やしたり整理したりし、自分の見方や感じ方を詳細に分かりやすく表現する力を高める。



(6) 本時の展開

- ・絵のよさについて、気付きを付箋に書き足す
(事実 は 上段、考え は 下段)
- ・気付きをグループで交流する
- ・絵のよさをグループで観点別にまとめる
- ・絵のよさについてグループごとに発表する

5 単元授業の構想と実践

(7) 考察



① 非連続型テキストを読むという言語活動

- ・比較と分析、その結果と言葉とのマッチングが行われていた

意味づけ

→ 視覚的な捉えを言葉で表現する力を高めたり、使える語彙を増やしたりすることができる

② 事実と考えを区別して書くという言語活動

- ・自分の感想を言語化できた
- ・「事実」と「考え」を意識的に区別する

意味づけ

関連づけ

→ 根拠をもって言葉で相手を説得する力が高まる

5 単元授業の構想と実践

(7) 考察

③「気づきをカテゴライズする」「集合に名前を付ける」という言語活動

- ・言語の関連を考え、下位概念から上位概念を導いていた

関連づけ

- 既習の語彙を構造的に整理して保存し、理解したり、使ったりする速さや的確さを向上させることに有効である
- より詳細に、より広く検索する力や具体的な例を挙げて説明する力を高めることに有効である

5 単元授業の構想と実践

(7) 考察

④再構成を起こさせるという言語活動について

メタ認知

→情報についての解釈をより深め、
さらに言語を模索し獲得できる

★一度作った観点を児童が問い直し再構成する
仕組みを単元につくるとよい
(インターバルを設定し、省察する時間を設ける)



6 言語力の形成プロセスの中に位置づく、書く力の形成プロセス

言語力の形成のプロセス

幼児期

音声言語による外言力の向上

他者と音声言語(外言)を用いて話すことで、意味の一般化共有化を図る。

独り言

7～8歳

内言力の向上

内言が上手になる。頭の中で内言を用いて試行錯誤する。見えない相手やもう一人の自分に内言で話しかける。

書く力の
形成

文字言語による外言力の向上

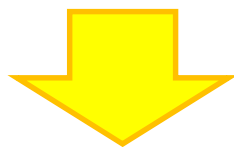
内言を、視覚的に表出することができるようになる。自分の考えを言葉で書いて表現できるようになる。

6 言語力の形成プロセスの中に位置づく、書く力の形成プロセス

「知識を教え込む」→「知識を活用させる」

認知のプロセス・言語力の形成プロセス・を思い描いて

「児童が知識を獲得し構造化する授業」をつくる



児童の発達を配慮した

適切な言語活動を仕組める・的確な評価ができる

7 支援の振り返りと課題

来年度の研究推進の思い描き

○書く力の内実を探り共通理解すること

○知識の獲得と構造化を目指した授業を作ること

○それを年間通して系統的に実践すること

【参考文献】

- 1)「へき地教育の特性に関する総合的研究：子どもの教育環境通してのへき地性・小規模性の測定を中心に」国立教育研究所編, 国立教育研究所, 1988
- 2) ヴィゴツキー(柴田義松訳):『思考と言語』, 新読書社, 2001
- 3) 井上尚美:『思考力育成への方略 ～メタ認知・自己学習・言語論理～』, 明治図書出版, 1998
- 4) 竹下研三:『ことばでつまずく子どもたち～話す・読む・書くの脳科学』, 中央法規, 2011
- 5) 藤澤伸介:『言語力～認知と意味の心理学』, 新曜社, 2011